

中国における日本文学の翻訳と研究

杉 山 太 郎

研究集会の文学分科会では、最近の中国における日本文学の研究と紹介に関して、中国社会科学院外国文学研究所東方文学研究室主任で、日本文学研究会副会長の職にあり、現在早稲田大学で日本古典詩歌を中心に研究しておられる李芒先生をおまねきし、そのお話をうかがった。李芒先生の講演は、現在の日本文学の研究体制、昨秋長春において成立した日本文学研究会の概要^(註1)、新しい研究潮流など多岐にわたり、さらに現在先生がもっとも関心をよせておられる日本の和歌・俳句の翻訳に関するお話もうかがうことができた。この講演に関するレポートも本来ここでとりあつかうべきであるが、まだ未整理なので報告できないのが残念である。が本文中でも多少の言及はあろう。したがって、以下は杉山の報告の概要である。

I、李芒先生の仕事^(註2)

1. 文革前

(1) 翻訳

- 没有太陽的街，徳永直，人民文学出版社，'58
- 徳永直選集1，人民文学出版社，'59
- 黒島伝治短篇小説選，上海文芸出版社，'62
- 壺井繁治詩集，作家出版社，'62（楼適夷と共訳）
- 鬼無鬼島，堀田善衛，作家出版社，'63
- 北京的星々，亀井勝一郎，作家出版社，'64（祖乗和と共訳）
- 怒吼吧，富士，渡辺順三，作家出版社，'65（瞿麦と共訳）
- 日本人民的英雄氣概，中本高子等，作家出版社，'65（安保闘争のアンソロジー，共訳）

＊以上単行本，以下発表紙誌別

《人民日報》

- 從意譯風中聽到的——在重非作家會議東京緊急會議上，大島博光，'61，5，20
- 最近遇到的事情，豊田正子，'62，7，3
- 鮮花獻給国治，門倉訳，'62，10，16

《光明日報》

- 來到新中国，足炳定之，'61，8，1
- 二百五十個名字，大島博光，'62，3，13

《世界文学》

- 媽媽，勝利就在眼前，“松川事件”無辜被告之一×藤，'55，10，附後記
- 謝謝你們，同佐藤一，'55，10，附後記
- 宮本百合子の発展道路，宮本顕治，'56，3，附前言
- 電報，両分錢，猪群，黒島伝治，'56，9 附前言（美山，梅草と三人で）
- 勤勞的一家，徳永直，'56，12
- 這些人們，中野重治，'56，12
- 石川啄木の詩與短歌，'58，5（共訳）
- 罪與罰，壺井繁治，'58，11
- 中国現代文学在日本，中島健蔵，'59，9
- 所有的人——齊呼呼——記新“安全条約”簽字，壺井繁治，'60，3，附前言
- 永遠高呼，我們反对！，大島博光，'60，3
- 雄鷄正在齊鳴！——介紹日本反对美帝國主義侵略的詩歌，'60，5
- 三池煤研，藤島宇内・福田善之・木下順二・宮本研・大橋喜一・八木柊一郎・山田民雄合作によるシュプレヒコール，'60，10
- 桔梗花之歌・鬬笠，野山広（西沢隆二），'61，3
- 重非作家會議的成果，阿部知二，'61，5
- 獻給我們的野坂同志，大島博光，'62，5

- 日本民族的雄壮気概，中本高子，'62，12 補
- 活命の凶章，殺人の凶章，松田解子，《人民日報》'60，5，10
- 雨中の品川車站，中野重治，《世界文学》《詩刊》
- 隊伍——記1960年5月26日偉大的統一行動，松田解子，'60，7
- 内灘——短歌八首，芦田高子，'60，9

(2) 論文等

- 関于日本反对“日美安全条約”の詩歌，《人民文学》，'60，4
- 日本文学家在反美闘争中奮勇前進，《光明日報》，'61，3，6
- 日本文学作品在中国，《光明日報》，'61，12，26（《大安》'62，3に訳載）
- 霜多正次の沖繩三部曲及其他，《世界文学》'63，5
- 沖繩風暴——霜多正次の《沖繩》，《世界文学》'64，1—2

以上北京大学亜非研究所編印

《我国譯介日本文学編目》'79，4^(註3)による

2. 文革後

(1) 翻訳

- 在外地主，小林多喜二，人民文学出版社，'73
- 到網走去，志賀直哉，《外国短編小説・中》'78，5
- 阿末的死，有島武郎，《外国短編小説・中》（鲁迅訳，解題李芒）
- 兩分硬幣，黒島伝治，'79，（《外国児童短編小説》所収）
- 高瀬舟，森鷗外，《北方文芸》'80，2
- 港灣小鎮，広津和郎，《当代短編選》

(2) 論文等

- 日本無産階級作家小林多喜二，《外国文学研究集刊1》'79

- 日本無産階級文学運動，《東方文学専集》'79
- 北方領土返還を，史科源蔵，《日語学習1》'79，9
- 蹄鉄屋の歌，小熊秀雄，《日語学習》'79，12
- 和歌漢訳問題小議，《日語学習與研究》'79，1
- 和歌漢訳問題再議，《 ” 》'80，1
- 土岐善磨短歌三十三首，《日語学習與研究》'80，2
- 多瑙河之歌，遠地輝武，《日語学習與研究》'80，3
- 徳永直，《外国名作家伝・上》'79，10
- 小林多喜二，《外国名作家伝・中》'79，10

以上のほか，日本語で最近発表されたものに以下のものがある。

- 李芒先生歓迎座談会——中国における日本文学研究の現状，岡田袈婆男記，《古代研究》10（早稲田大学における李芒先生歓迎座談会の録音をおこしたもの）
- 中国での日本文学研究，《日本と中国》'80，8，15（原中国語，同紙編集部訳 特約稿）
- 日本文学研究述懐，《日本文学》'80，9（原中国語，水谷誠訳）

※リストは80年8月現在で報告者が知りえたものを当日レジュメとして配布したものに，若干の増補をしたもの。もとより完全なものではなく，むしろより完全なものを目指すべく，御教示を期待してあげるものである。不十分な点をお教え下さい。以下にあげるいくつかのリストも同様の趣旨でここにあげます。リストの作品名等はすべて中国で発表されたときの題名である。したがって，日本語学習者むけに発表された対訳等では日本名があげられ，また同一の作品に対し異った訳名がつけられている場合もある。この場合，原名をあげることはしていない，不悪。

李芒先生の半生は日本語で発表されている三本の文章、座談会の記録に詳しい。とりわけ《日本文学研究述懐》においては、自らの日本文学との間を語り、また現在の中国の日本文学研究体制についても言及され、さらに現在計画中の事業についても記されている。

李芒先生の仕事の一つの核を占める日本詩歌の翻訳に関しては、雑誌《日語学習与研究》所収の論文と、《古代研究》所収の座談会記録の後半に実例をまじえた紹介がある。実際、先生の定形詩の訳は、錢稻孫の五言絶句による万葉集の翻訳、安達明の原形翻訳（例えば五・七・五は漢字五字七字五字で訳すもの）とも異なる定形詩的翻訳である。意味や韻律によって多少の差がでるが、多くの場合日本語の五音は漢字三字、七・五で七字というスタイルをとることが多い。日本語の韻律とになる意味から考え、おそらくこのスタイルがもっとも形になりやすいものなのではあるまいか。実際の訳例に関しては、前掲の論文を参照していただきたい。

李芒先生の文革以前から継続されている研究・紹介の仕事として、日本のプロレタリア文学の研究と紹介の仕事がある。雑誌《世界文学》の副編集としての厳務の中で、先生はリストにあげられたような多くの作品の翻訳にとりくみ、また文革後はじめて刊行された日本文学の中訳書《在外地主》の翻訳にもたずさわっておられる。ただ先生の文革前の仕事の中で、プロレタリア文学の占める比重が圧倒的であるのは、中国の側の情況の反映でもある。先生自身が集会で発言されたことでもあるが、この時代の中国における外国文学の紹介は国外における人民の闘いを反映した作品を中心とするという方針にもとづいてなされていた。その線にのって選択された作品群だということである。そのために、先生の言によれば、作品のもつ芸術には目をつぶるということもしばしばであったのである。そして、これはその時代の中

国における日本文学の紹介の方針であるから、先生の仕事は其中で典型性をもっていて、ここから同時代の紹介状況を推察しても、大きな誤りはなさそうである。先生の仕事の中では、安保闘争の中で書かれた作品群の紹介、松川事件の被告達の作品の紹介に目をひかれる。

その一方で、日本人なら誰でも読んだことのありそうな作家達の作品が少いのが目につく。勿論漱石の紹介などまったくなかったわけではないが、いささか信じ難いことに、森鷗外の作品は、先生の《高瀬舟》が発表されるまで新中国において紹介されたことがなかったそうである。この作品の紹介のかたよりは、中国における日本認識のネックとなっているはずであり、また最近の紹介の幅の広さともつながってこよう。先生はつい最近大阪ではじめて山本周五郎という作家の存在を知ったそうである。いままで山本周五郎を紹介できなかったことは、先生の痛恨事となったようである。谷崎のような存在はよく知っていても紹介されなかった作家とはまた別に。

（注1）文献的には、《吉林師大学報》'80, 1に《全国日本文学討論会在長春召開並成立全国日本文学研究会》と題して報告されたものももっとも詳しい。それによると同研究会は79年9月12日から20日にかけて長春で開かれ、80余名が参加し、30本以上の論文が提出された。（参加者の中には岩崎富久男氏の名もみえる）大会では夏衍を名誉会長に、林林を会長に、楼適夷、李芒、呂元明の各氏を副会長に選出した。

（注2）単行本は出版社と刊行年を示し、雑誌新聞にのったものはその期を示してある。誌紙名には《 》をつけてある。以下のリストも同様。

（注3）油印本のコピーは、中国研究所蔵、解放前からの単行本及び雑誌等に掲載された日本文学の作品リスト。解放後は文革以前までの人民共和国発表分を発表誌紙別に分類してある。作

品数の多い《世界文学》所載分については、作者別に分類されている。本稿の文革前の分については、全面的にこのリストによっている。

なお最近香港中文大学出版社より《中国訳日本書綜合目録》さねとう・けいしゅう監修、譚汝謙主編小川博編輯、'80 というリストが刊行されている。このリストについては編者の譚汝謙の《編集記》が、日本の東方書店刊《東方》12に掲載されている。リストは晩清から1949年までに中国で刊行された単行本と、49年以降人民共和国と季港、台湾で刊行された単行本を網羅している。しかし、雑誌等に掲載された作品はリストの対象とされていない。

(注4) 《日本文学》の同号には、ほかに卞立強《新中国における三十年来の日本文学の翻訳研究の状況》をのせているから、あわせて参照されたい。

II、最近の日本文学の研究と紹介

以下に、文革以後の日本文学の研究と紹介に関するリストをいくつかあげる。各々のリストには以下のような性格がある。

2-1. 作家・作品紹介 a, 《辞海・文学分冊》'79, 5 による — このリストは、《辞海・文学分冊》'79, 5 に採録されている日本文学者についてふれている論文等と作品の翻訳を、《辞海》の順序にしたがって配列したものである。《辞海》という百科辞典的性格をもったものに採録されたものが、現在の中国の一般的教養 — 特に日本文学興味をもっているわけではない中国人の一般的教養の範囲である、とひとまず考えられるためである。リストは左から作品名、所収の雑誌、作品集、論文集等、 — 訳とあるのは訳者名、 — 作とあるのは論文等の執筆者名である。×印がついているのは、《辞海・文学語詞分冊》'63 にないもの。新しい《辞海》は、この版より大幅に採録の範囲

を広げている。

また、このリストでは中国人の教養の範囲ということで、各種の人名事典、作品提要の類からもつとめてひろうようにしている。したがって、同じ文学者の項目には、人名事典風の短い紹介から、一冊の作品集までが肩をならべているわけである。

なお☆印は李芒先生にお教えいただいたものである。

2-2. 作家・作品紹介 b, — は2-1 からもれた作家をあつめたもの。むしろこのリストの中に、最近の紹介の特色をよむことができるはずである。リストの配列は、日本名の五十音順、その他の示し方は2-1と同様である。

3. 日本語教材・参考書等 — は、中国における日本語教材の中に収められているもの、あるいは日本語学習者にむけて、発行されている雑誌に閲読教材としてとられているもののリストである。その性格から、対訳物が多くなっている。ただし、テキストは“四人組”打倒以前のものが多く、そのために日本語のオリジナル教材はきわめて少くなっている。

4. 日本文学概説・概況等 — は、2-1-2 が個々の作家を対象として書かれたものをあつめたのに対し、日本文学の概況を述べることを目的としたものをあげてある。主要な論文については、そこでとりあげられている日本文学の流派と、言及されている作品をあげておいた。ここからも、現在の中国人がどういう価値基準で日本文学を評価しているのかをよみとることができるのではないかと思う。《日本問題訳叢》におさめられているのは、多く文学全集の解題である。

5. 各誌雑報 — は、そこにあげた各誌の雑報・動態等を取りあげる專欄に収録されている記事からひろったものである。文学賞等については、作品名もひろっておいたものがある。

2-1. 作家・作品紹介 a 《辞海文学分冊》, '79, 5 による

紫式部

《紫式部》，《外国名作家伝中》'79, 10, 高
慧勤作

清少納言, 井原西鶴, 松尾芭蕉, 近松門左衛門,
与謝蕪村, 瀧沢馬琴 (以上ナシ)

式亭三馬

《浮世澡堂》，《外国文学作品提要1》'80,
7, 劉文栄作

小泉八雲, 坪内逍遙, 広津柳浪 (以上ナシ)

森鷗外

《舞女》，《湖北省外国文学年刊'79》，隋永楨
訳

二葉亭四迷

《浮雲》11, 12, 《外国文学作品選3》，石堅
白, 秦柯訳

《浮雲》，《外国文学作品提要1》'80, 7,
張森作

《二葉亭四迷》，《外国名作家伝上》'79, 2,
李德純作

正岡子規, 尾崎紅葉, 幸田露伴 (以上ナシ)

夏目漱石

《我是猫》片断《外国文学作品選3》，胡雪,
由其訳

《夏目漱石》，《外国名作家伝中》'79, 10,
何少賢作

北村透谷 (ナシ)

徳富芦花

《黒潮》，上海訳文 '78, 6 新1版, 上海文芸
'59, 8 初版, 全福訳

内田魯庵, 木下尚江 (以上ナシ)

国木田独歩

《国木田独歩選集》，人民文学出版社'78, 9,
全福訳

《少年的悲哀》，《外国短編小説・中》'78,
5, 李德純訳

《両少女》，《暴風雪》'79, 1, 待桁訳
田山花袋, 徳田秋声 (ナシ)

樋口一葉

《十三夜》，《外国短編小説・中》'78, 5,
肖肖訳, 李德純解題

《樋口一葉》，《外国名作家伝中》'79, 10, 李
徳純作

島崎藤村

《家》，江蘇人民出版社

有島武郎, 与謝野晶子, 真山青果, 長塚節, 片山
孤村, 厨川白村, 内山完造 (ナシ)

石川啄木

《到民間去——石川啄木の啓示》，《読書》
'80, 6 林林作

菊地寛

《新珠》，福建人民出版社, '79, 12, 馮度訳

芥川龍之介

《羅生門》，《外国文学作品選3》，魯迅訳

《鼻子》，《外国文学作品選3》，魯迅訳

《魔術》，《暴風雪》'79, 1, 呉樹文訳

《地獄図》，《新苑》'79, 1, 呂元明訳 後
記

《地獄図》，《外国文学作品提要1》'80, 7,
高慧勤作

《芥川龍之介小説十一篇》，湖南人民出版社,
'80, 5, 樓適夷訳

葉山嘉樹

《生活在海上的人們》，上海訳文出版社, 徐波
平訳

黒島伝治

《兩分銅幣》日漢对照, 上海訳文出版社, '79,
3, 呉俗夫注, (ほかに《電報》《猪群》を所
収)

宮本百合子

《播州平野》，《外国文学作品提要1》'80,
7, 張遼民作

徳永直

《馬》，《外国児童短編小説》'79, 8, 劉仲
平訳

《静静的群山》，《外国文学作品選4》，肖肖
 訳

尾崎秀実（ナシ）

小林多喜二

《沼尾村》，人民文学出版社，'73，5，李德純訳

《蟹工船》，人民文学出版社，'73，10，葉渭渠訳

《為党生活的人》，人民文学出版者，'79，9，

卞立強訳

《地下黨員》，《外国文学作品選4》

万葉集

《万葉集74首》，《外国文学作品選1》，楊烈
 訳（短歌は5絶に長歌は5言に）

《万葉集選訳》，《世界文学》'80，5，×立
 強・劉振・陳文彬訳

《読山上憶良の〈貧窮問答歌〉》，《外国文学
 研究》，'80，1，趙染牲作

源氏物語

《桐壺》，《外国文学作品選1》，錢稻孫訳

《須磨》，《世界文学》'80，5，豐子愷訳

《日本平安王朝の歴史画卷——評〈源氏物語〉》，井上靖

《世界文学》'80，5，葉渭渠作

枕草子，平家物語，蟹工船，物語，浮世草子，俳
 句，和歌，硯友社（以上ナシ）

白樺派

《反封建，自我完成——漫讀白樺派的自然主義
 文学》，《湖北省外国文学年刊'79》，胡肇書作

那普（ナシ）

補《芸術分冊戲劇》'80，2，採録項目
 世阿弥，近松門左衛門，島村抱月，小山内薫，
 秋田雨雀，市川猿之助（先代），土方与志，勸
 進帳，筑地小劇場

2-2. 作家・作品紹介 b

（古典）

《古事記》，人民文学'79，10，2版2刷，鄒有
 恒・呂元明訳

《古事記》，《外国文学作品提要1》'80，7，
 然作

《竹取物語》，《世界文学》'80，5，全福訳
 （明治以後）

赤川次郎

《電梯健康法》，《訳林》'80，2，孫好軒訳
 安部公房

《紅蜩》，《名作欣賞》'80，1，胡志昂訳
 有吉佐和子

《有吉佐和子小説選》，人民文学出版社'77，
 11，文潔若・葉渭渠訳

（《木偶淨瑠璃》《黒衣》《地歌》《墨》）
 '65，作家出版社初版

《恍惚の人》，人民文学'79，6，秀豊・渭慧訳

《非色》，《外国文学作品提要1》'80，7，
 李德純作

《有吉佐和子》，《外国名作家伝中》'79，10，
 高慧勤作

五木寛之

《看那灰色的馬》，《訳林》'80，1，譚晶華
 訳周平校

井上靖

《井上靖小説選》，人民文学出版社'77，1，1
 唐月梅訳

（《核桃林》《棄老》《比良山の石南花》

《一ヶ冒名の画家の生涯》）

《天平之薨》，人民文学出版社'80，2，樓
 適夷新訳

《天平之薨・日本歴史劇》，江蘇人民出版社，
 '79，1，陳德文訳

《天平之薨・電影劇本》

《闘牛》，《世界文学》'79，3，李德純訳

《闘牛》，《世界文学作品提要》'80，7，李
 德純作

《中国文芸復興》，《春風》'79，1，文潔若訳

《井上靖》，《世界文学作家小伝》'79，3，
 李德純作

《井上靖》，《外国名作家伝上》'79，2，李
 德純作

- 《井上靖及其西域小說》，《文芸報》'79, 10, 高慧動作
《談談井上靖的小說》，《外国文学研究》'80 1, 莫邦富作
他に《射程》《西域之行》《敦煌》《水壁》
《夜声》，李德純準備写井上靖論
- 茨木則子
《在我最美的時候》，《詩刊》'79, 11, 彭銀漢
漢訳
- 上野英信
《上野英信鎬渠》，人民文学出版社'79, 6, 何平訳
- 江馬修
《山民，第一部飛驒国》，上海訳文出版社，×立強訳
- 開高健
《日本現代派作家開高健》，《訳林》'80, 1, 莫邦富作
- 加藤多一
《白圀裙和白山羊》，人民文学出版社'79, 11, 高烈夫訳
- 川端康成
《我在美麗的日本》，《世界文学》'79, 3, 唐月梅訳
《川端康成》，《世界文学作家小伝》'79, 3, 唐月梅作
《川端康成》，《外国名作家伝》'79, 2, 李德純作
- 日下圭介
《暗流》，《世界図書》'80, 7, 曲元訳文愷校
- 佐多稲子
《樹影》，湖南人民出版社'80, 文潔若訳
- 志賀直哉
《往在溝沿》，《芙蓉》'80, 1, 樓適夷訳
《暗夜行路》，《外国文学作品提要1》'80, 7, 文軍作
- 新藤兼人
《没有寄出的三封信 電影劇本》，《訳林》'80, 1, 李正倫訳
- 谷崎潤一郎
《春琴抄》，《外国文学作品提要1》'80, 7, 文軍作
- 田宮虎彦
《明石海峡》，《春風》'80, 5, 劉光宇訳
陳舜臣
《記旅日著名華僑作家陳舜臣》，《文芸報》'80, 6, 卞立強作
- 坪田讓治
《日本民間故事》，人民文学出版社'79, 9, 陳志泉訳
《流浪兒的夢》，《外国兒童短編小説》'79, 8, 安向明節訳
- 夏樹静子
《来自懸崖的呼救声》，《春風》'79, 3, 同秀麗訳
- 野間宏
《臉上的紅月亮》，《春風》'79, 3, 于雷訳
- 広津和郎
《到泉水去的道路》，《外国文学作品提要1》'80, 7, 張遼民作
- 福沢諭吉
《福沢諭吉自伝》，商務院書館，馬斌訳
- 淵田美津雄
《襲撃珍珠港》，商務院書館，許秋明訳
- 松本清張
《点和線》，《外国文学作品提要1》'80, 8, 何少賢作
- 水上勉
《紅花物語》，湖南人民出版社
《蟋蟀葫芦》，《春風》'79, 2, 文潔若訳
《蟋蟀罐と柿子》，《長江文芸》'80, 5, 陳喜儒訳
《東山の枇杷》，《長江文芸》'80, 2, 孫東民

訳

《扶桑摯友——關於日本作家水上勉》，《長江文芸》'80，5，林紹綱作

《憂愁・悲傷・怨恨——水上勉和推理小説〈耳朵〉》，《外国文学研究》'80，2，河森耀作
《情深浦江——訪日本作家水上勉》，《長安》'80，2，河森耀作

緑川英子

《失掉的兩個蘋果》，《詩刊》'80，4，賀佩康
訳

宮島資夫

《評日本工人文学的奠基作〈礦工〉》，《外国文学研究》'80，2，平獻明作

三好京三

《分校日記》，《訳林》'79，1，柯志萍訳

森村誠一

《人性的証明》，江蘇人民出版社'79，11

《人的証明，電影劇本》，《世界文学》'79，3

《人性的証明，日本電影文学劇本》，浙江人民出版社'79，12，南京大学外国文学研究所訳

（ほかに《犬神家族》《風逝》所収）

《社会派推理文芸の佳作——介紹日本暢銷小説〈人間的証明〉》，李景瑞作

依田義賢

《望郷詩》，人民文学出版社'79，8，李正倫訳

四手井綱英

《桜花》，《訳林》'80，1，陳生保訳

和田颯太

《神獵手》，《訳林》'80，2，鮑延明訳

その他，及び選集

《日本民間故事》，《民間文学》'80，5，連湘訳（《桃太郎》《瓜姑娘》《仙鶴女》）

《日本の童話》，《民間文学》'80，1，常任俠作

《地藏菩薩和鬬笠》，《連環画報》'80，1，韓宗琦訳（簡井敬介文 安重光雅絵）

《日本狂言選》，人民文学出版社'80，2，申非訳

《日本推理小説選》，群衆出版社'80，吳樹文等
訳

3. 日本語教材参考書等

1. 教科書

《こいのぼり》，島崎藤村，商務印書館'64，8初版，'73，1，4刷

《級長の願い》，小林多喜二，《日語読本》吉林大学外語系日語教研室編，吉林人民出版社，'75，3

※《日語（日語專業用）上海市大学教材》'74～'75，《日語（北京市業余外語廣播講座）初級班》'76，《日語（上海市業余外語廣播講座）試用本》'73～'74には，日本語のオリジナルな作品なし

2. 日本語学習者研究者向出版物

（古典）

《貧窮問答の歌一首》，《日語學習與研究》'80，1，尚永清訳解

《〈徒然草〉選釈》，《日語學習與研究》'79，1，劉振羸

（明治以後）

徳永直

《金兵衛さん》対訳《日語學習與研究》'79，1，松筠訳注

阿部昭

《自転車》対訳《日語學習與研究》'80，1～2，李林訳注

井上靖

《胡桃林》，《日語學習2》'79，12，未遲訳注

《敦煌への道》対訳《日語學習與研究》'80，1，李正倫訳注

茨木則子

《わたしが一番きれいだったとき》，《日語學習與研究》'79，1，彭銀漢訳解

江馬修

《江馬修和他的長篇小説〈山民〉》，《日語學習與研究》'80，-1，卞立強作

- 金子光晴
《湖畔吟》，《日語學習與研究》'79，1，尚永清訳解
- 木下順二
《えんま大王の大しくじり》対訳《日語學習與研究》'79，1，申非訳注
- 今日出海
《凡人閑話》対訳《日語學習與研究》'80，1，韓進旺訳注
- 佐多稲子
《水》対訳《日語學習與研究》'79，1，冷明訳注
- 司馬遼太郎
《無名の人》対訳《日語學習與研究》'79，1，陶振孝訳注
- 曾野綾子
《身欠きにしん》対訳《日語學習與研究》'80，1～2，文潔若訳注
- 高橋和巳
《隔絶の時代》対訳《日語學習與研究》'80，1，岳久安訳注
- 西尾実
《おじさん寒いね》対訳《日語學習與研究》'79，1，韓進旺訳注
- 東山魁夷
《一枚の葉》対訳《日語學習與研究》'80，2，焦同仁訳注
- 星新一
《なぞの青年》対訳《日語學習與研究》'80，2，曹紅月訳注
- 安岡章太郎
《幸福》対訳《日語學習與研究》'80，2，陶振孝訳注
- 日語注釈文選(一)(二) 李孫華等注解，北京出版社'79
- 4. 日本文学概説，概況**
《当前日本文学浅淡》，《光明日報，文学付刊》'79，5，15，葉渭渠・唐月梅作
- (现实主义)
山崎豊子《豪門望族》《白色的巨塔》《不毛之地》
有吉佐和子《不是由于膚色》《恍惚的人》《暖流》
城山三郎《官僚們的夏天》
長谷川四郎・関根弘・小沢信男《六鬼道地獄》
井上靖《夜声》
佐木隆三《大罷工》
(历史小説)
司馬遼太郎《空海的形象》《從長安到北京》
依田義賢《望郷詩》
井上靖《天平之薨》《敦煌》《楼蘭》
陳舜臣
柴田鍊三郎
中島健蔵《回憶的文学》
(反霸權文学)
三浦哲郎《北方的城塞》，夏堀正元《北方的墓標》
吉村昭《北天的星》，網淵謙錠《秋》
(推理小説)
松本清張《日本の黒霧》《深層海流》《現代官僚論》
水上勉《花的墓碑》“森村熱潮”
(内向文学)
阿部昭《人生的一日》，黒井千次《五月的巡歴》
(年輕作家“非理性”的形式主義)
村上龍《近乎無限透明的藍色》
池田満寿夫《獻給愛琴海》
(作為人派)
高橋和巳《憂郁的党派》，柴田翔《逝去了，我們的日子》，小田実，開高健，真継伸彦《響亮的声音》，高野悦子《二十歲的原点》，三田誠広《我算是個甚麼》，山川建一《鏡中的玻璃船》
(末日文学)
小松左京《日本沈没》，大江健三郎《洪水涌向我的靈魂》，堺屋太一《油断》
《戦後日本文学概貌》，《世界文学》'79，5，李德純作
(戦後派作家)

野間宏《真空地帶》《陰暗的凶画》《臉上的紅月亮》

梅崎春生《桜島》

大岡昇平《俘虜記》《野火》

椎名麟三《深夜的酒宴》

中村真一郎《死亡的陰影下》

埴谷雄高《死靈》

（老作家反戰文学）

野上弥生子《狐》，林芙美子《漩渦》，正宗白鳥
《戰爭受害者的悲哀》，宇野浩二《回憶草》，
井伏鱒二《遙拜隊長》

（現實主義佳作）

志賀直哉《灰色的月亮》，広津和郎《幽靈列車》，
井上靖《鬪牛》

（荒原派）

田村隆一《四十年代的夏天》，鮎川信夫《救護船
日記》

（新戲作派）

太宰治《斜陽》《沒有作人的資格》，坂口安吾
（肉體文学）

田村泰次郎，井上友一郎

（揚露日美統治階級）

《查特萊夫人的情人》，五一労働節流血慘案，松
川事件，反對修改日美安全條約，広津和郎《到
泉水去的道路》，石川達三《人牆》

有吉佐和子《非色》《地歌》《一條線》

小島信夫《美國學校》

（社會派推理小說）

松本清張《零的焦點》《日本的黑霧》

水上勉《花的墓碑》，《有馬賴義，黒岩重吾，梶
山季之，戸川昌子

（列島派，其他流派的詩人）

浜田知章《奴隸基地》，長谷川龍生《追隨者》

関根宏《樣樣都好》

村田正夫《觸目皆是戰車》，川村庸雄《祖國中的
外國》，吉本隆明《時間的死亡》，天沢退二郎
《眼睛和現在——訪六月的犧牲者》，渡辺武信

《寒冷的清晨——為了六月十五日的記憶》

井上靖《比良山的石楠花》《一個冒名畫家的生涯》

阿部知二《日月之窓》，深沢七郎《楢山小調考》

飯沢匡《姨太太》，大橋喜一《真實穿射牆》，小
山佑士《雙人舞會》《黃金波浪》

（中日友好題材的作品）

井上靖《天平之薨》《樓蘭》《敦煌》《蒼狼》，
中島健蔵《新中国点描》，亀井勝一郎《中國旅行》
（現代派青年作家）

安部公房《牆壁》，大江健三郎《奇妙的工作》
《死者的驕傲》《旁人的腳》《飼育》《人羊》
《其不意變成了嘔吐》，開高健《恐慌》

。頽廢文学・唯美主義

石原慎太郎《太陽的季節》，原田康子《挽歌》，
谷崎潤一郎《鍵匙》《瘋癲老人日記》，川端康成
《伊豆的舞女》《雪國》《山之音》《千只鶴》
《睡美人》

（現實主義）

山崎豐子《華麗的家族》《不毛地帶》，石川達三
《金環蝕》

。新社會派推理

森村誠一《人的証明》《青春的証明》《野性的証
明》，夏樹静子《來白懸崖的呼救聲》，西村京太
郎《和善的作騙犯》

有吉佐和子《綜合污染》，石牟礼道子《苦海淨土》
水上勉《海的牙齒》，新田次郎《某城鎮的高烟突》
小松左京《日本沈沒》，堺屋太一《油斷》，有吉
佐和子《恍惚的人》

（歷史小說）

司馬遼太郎《龍馬奔走》《窮國故事》，新山三郎
《黃金時代》《官僚們的夏天》，司馬遼太郎《凌
雲壯志》，新田次郎《八甲田山死的彷徨》

（以北方領土為題材的歷史小說）

三浦哲郎《北方的城塞》，夏堀正元《北方的墓碑》
（中日文化交流）

司馬遼太郎《空海的風采》《漠風楚雨》，土岐善麿の短歌

（軍国主義美化）

三島由紀夫《憂国》《英靈之声》《明日黃花》
《豐饒之海》

《近年来的日本文学》《訳林》'79. 1 陳德文作
（以變態性愛為題材的作品）

高橋揆一郎《伸予》，吉行淳之介《黃昏之前》，
安部公房《密會》，村上龍《近于無限透明的藍色》
池田滿寿夫《獻給愛琴海》

（歷史小說）

井上靖《天平之甕》《敦煌》《樓蘭》，司馬遼太郎
《空海的形象》《漠風楚雨》《龍馬的一生》
《坂上風雲》

（北方領土）

夏堀正元《北方的墓標》，吉村昭《北天的星辰》
（推理小說）

橫溝正史《八墓村》《獄門島》《犬神家族》，松
本清張《日本的黑霧》《點與線》，森村誠一《人
生的証明》《惡星》《誘鬼灯》，夏樹静子《閃光
的懸崖》

《日本当代三作家》《外国文学砂究》'80.2 李德
純作

石原慎太郎・三島由紀夫・司馬遼太郎

《日本明治時期的文学淺談》《外国文学研究》，
'80. 1，古月作

《略論日本早期無產階級文学》《遼寧大學學報》
平獻明・王凌作

《偵探小說果真要不得么？——為日本社会派推理
小說說幾句話》《外国文学研究集刊第一輯》，高
慧動作

《日本問題叢2》'79, 8，吉林人民出版社

◦昭和53年的文学

——煉獄的作者門

◦現代小說的解放和重健

◦日本戰後派文学

川村二郎

伊藤一夫

本多秋五

◦井上靖的文学基調

◦安部公房與先鋒派文学

◦我的戰後史

◦川端文学的構成

——關於聯想的作用

◦石原慎太郎的《太陽的季節》

——“高速發展”中的文学，一場小爭
論的回顧

◦小島信夫的土俗風格和近代生活

◦處於医学和文学之間的地位

——論加賀乙彦

◦橫溝正史

◦司馬遼太郎

《中日的自然詩觀》《世界文学》'80. 5，林林作
5. 各誌雜報《文摘・世界文化之窓》

《日本民間故事大成出版》'79, 4

《機部外国古典文学作品搬上銀幕》'79, 5

漱石《我是貓》'75第2次搬上 市川昆導演

《日本上演〈屈原〉》'79, 6

《日本小說〈近乎無限透明藍色〉將搬上銀幕》
'79, 7

《日本出版竹內實的〈魯迅遠景〉》'79, 10

《日本出版夏目漱石遺墨集》'79, 11

《日本出版綜合性月刊〈中国〉》'80, 4

《日本出版評價茅盾創作活動的專著》'80, 5

《內山完造的〈緬懷魯迅〉》

《日本人提唱多說的書》

《世界文学・動態》

《〈天平之甕〉將在中国拍外景》'78, 1

《日本作家和田芳惠遺作〈雪姑娘〉獲第5屆川端
康成文学獎》'79, 1

《日本公布第10次3大新潮獎》'79, 1 莫邦富作

《近尚年在日本最受歡迎的作家及作品》'79, 3

莫邦富，樓志娟

據78年全國讀書與論調，森村誠一《人的証明》

《野性的証明》新田次郎《八甲田山死的彷徨》

《聖職之碑》五木寬之《青春的門》山崎豐子

- 《不毛地帯》《白色的巨塔》池田大作《人間革命》哈萊《根》漱石《心》
- 《日本文学作家開高健短篇小説〈玉碎〉獲第6屆川端文学獎》 '79, 5 莫邦富作
- 山本健吉之選評：「作為對老舍的挽歌《玉碎》是可以和井上靖的《壺》相瓏美的」
- 《森村誠一要求退出日本推理作家協會》 '79, 6 莫邦富作
- 《有島武郎展覽在東京開幕》 '80, 2 辛蔚作
- 《深沢七郎拒不接受川端康成文学獎》 '80, 4 莫邦富作
- 〔訳林・外国文壇動態〕
- 《日本発表第81屆直木獎》 '79, 1 莫邦富作
- 《新日本文学会挙 悼念作家中野重治的活動》 '80, 1 莫邦富作
- 《日本公布第三屆「昂」文学獎 '80, 1 莫邦富作
- 《京都啊，你支持着我的思念展翼翔翔》
- 《日本舉行第三十二屆野間文芸獎和第一屆野間文芸新人獎發獎議式》 '80, 2 莫邦富作
- 《世界図書・簡訊》
- 《台湾翻譯出版〈源氏物語〉》 '80, 6 超
- 台湾大学林月訳 台湾中外文学月刊社 '79
- 《外国文学研究・国外研究動態》
- 《日本的青春電影》 '80, 2 童斌作
- 《唐十郎及其作品全集》 '80, 2 童斌作

以上のリストからまず感じられることは、文革前に比べ紹介される作家の範囲が多彩になったことである。文革前の編集のあとを残しているであろう《辞海》が、プロレタリア文学までをしか採録していないのはきわめて特徴的である。作品集に選ばれる作品にプロレタリア文学系統の作品が多いのも、それと関係があるかもしれない。

では2-2の中にま特徴的なことはないのかというと、次のようなことは指摘できよう。井上靖や有吉佐和子に代表される中国となじみの深い作

家の作品は、多く紹介される傾向にあり、しかも評価として肯定的な評価をえていること。松本清張、森村誠一等のいわゆる社会派推理小説に人気があり、これも高い肯定的評価をえていること。賞をとった作品がどうしても紹介されやすいこと。雑誌《人間として》の同人の系統が否定的に評価されがちであり、紹介も少いこと（ただし開高健については専論がある）。このあたり、我々がよみたい作家とのズレが大きそうである。叶渭渠、唐月梅論文が、大江健三郎を小松左京、堺屋太一と同列に扱っているところなど、いかがかと思わせられるのである。この論文についてもう一つつけ加えるとすると、この論文で肯定的に評価されている作品と、《世界文学・動態》 '79, 3に紹介されている '78年日本全国の読書世論調査の結果、ベスト・セラーとなっている作品と多く重なるのである。このあたりが、紹介作品選択の一つのメドとなっているためであろうか。

もう一つ、60年代後半から日本の文学状況の中で、絶対量としては少数派でありながら、一部に大きな地位を占める日本の現代戯曲の紹介がなされていないことが残念である。このリストからは、中国の映画誌に掲載された映画シナリオについては割あいしてあるが、舞台の戯曲についてはあげてあるつもりである。過去においては木下順二の民話劇の翻訳なども出版されていることはいるが大勢として日本の舞台人に関しては、《辞海・芸術分冊》がその理解状況を示している。その中で、唐十郎の作品集出版の紹介がされていることに目をひかれるのはどういう理由によるのであろうか。

日本の古典文学に関しては、《世界の文学》 '80 5が特集を組んでいて、《万葉集》《源氏物語・須磨》《竹取物語》の翻訳と、《源氏》関係の論文、中日の自然詩観をめぐる論文が掲載されているのに目をひかれる。一般的にいう上代文学紹介の比重が高いのが特徴であり、特に詩歌については《万葉集》の翻訳が多く、平安朝以降の紹介

が少くない。

最後に最近の外国文学全般の紹介状況についてふれておきたい。以前は外国文学の紹介は雑誌《世界文学》一誌が担当していたが、'80年現在で《訳林》《外国文学》《外国文学研究》の諸誌がそのための専刊として刊行されている。また各地の文芸誌とりわけ大型刊物と呼ばれるものには、大抵1本以上の外国文学作品の翻訳等が掲載されるようになっている。つまり、紹介のためのメディアが大きく広がっているのである。

今年創刊された《外国文学》誌は、各号が1国あるいは1地域の文学の紹介特集というスタイルをとっており、近着の3期まで、日本文学の紹介

はない。いずれ、日本文学特集号もくまれようが。

ただ最近の傾向として、第三世界の文学の紹介の比重が低下しているように感じられる。文革以前の外国人民の闘いを反映した文学の紹介誌としての《世界文学》の性格は、国外の読者にとっては、第三世界の文学を読むために機能していたのが、それを期待する読者にとっていささかもものたりない現状である。その分現代欧米文学や、ラテン・アメリカ文学の紹介の比重があがり、その意味では中国の外国文学読書の傾向は、たとえば日本の第一線とあまりかわらない状況を呈しているともいえよう。その中では日本文学の紹介、いささかたちおけている、ともいえようか。

中華人民共和国主要法令集・I

中華人民共和国憲法、憲法の一部改正に関する決議、地方各級人民代表大会および地方各級人民政府組織法、全国人民代表會議選舉法、刑法、刑事訴訟法、人民法院組織法、檢察院組織法、中外合資經營企業法（合弁法）、弁護士暫行条例について解説・条文邦訳を収録。解説Ⅱ浅井敦 鈴木輝二・田中信行、国谷知史 法令集・Ⅱは、国籍法、婚姻法、環境保護関連法規等を収録 頒価2、500円

中国刑事訴訟法についての張子培氏ほかによる詳細・具体的な理論解説書（北京政法学院訴訟法教研室編）日本語訳版。解説・中国の刑事訴訟法について、訳語一覧表（対照）中国刑訴法（全文）中国の司法機構図を収録 頒価2、500円

中華人民共和国刑事訴訟法講話

■中国研究所編の目録・資料

新華月報総目録（一九四九—六〇年）

B5版 400頁 頒価6、800円

中国各大学学報総目録（一九七八年版）

B5版 100頁 頒価2、200円

中国研究月報総目録（一九四七—七七年）

B5版 48頁 頒価800円

■（社）中国研究所・編集

大修館書店・発行

新中国年鑑一九八〇年版

特集Ⅱ中国30年史年表（別冊）図説中国30年

好評

一九五五年以来刊行されてきた本年鑑は、中国側の最新の統計・資料をもとに国土／自然／人口／行政区／政治／法律／外交／経済／文化／国民生活の各領域にわたって現況・動向・趨勢についてわかりやすく解説。併せて主要法令は重要資料を収録し、中国に関心をもつすべての人々に最新かつ正確な中国の情報・知識を提供する。B5版 本冊378頁・別冊66頁 頒価9、300円

申込み
問合せ

社団法人
中国研究所

〒102 東京都千代田区九段北四—1—三四
振替東京—四八四六八
☎〇三（二六一）六二九八・八八九二